

審議会等会議録（概要版）

| | |
|------------|--|
| 審議会等の名称 | 第5回山口市総合計画策定協議会 |
| 開催日時 | 平成29年5月26日（金曜日）14:00～16:00 |
| 開催場所 | 防長苑 1階白鳳の間 |
| 公開・部分公開の区分 | 公開 |
| 出席者 | 田中委員、加登田委員 ほか18名（全20名） |
| 欠席者 | 鵜委員、瀧本委員、西村委員、大庭委員 |
| 事務局 | 山口市総合政策部企画経営課 |
| 次第 | <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事（別欄参照） 4 意見交換 5 今後の日程 6 閉会 |
| 議事 | <p>(1) これまでの協議について</p> <p>(2) 第二次山口市総合計画骨子案</p> <p>【会長】</p> <p>お忙しい中、本協議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>これまでの策定協議会、昨年一年間開催いたしまして、現状の把握と課題といったものを整理させていただきました。その中でいろんなご意見をいただきまして、今回事務局が、総合計画の骨子案をとりまとめ、今回資料として、皆様にお配りをしております。本日は、骨子案の基本構想の部分を中心に、御協議をいただくことを考えております。骨子案ですので、まだ決まったものでもございませんし、色々ご意見をいただきながら、これを直していく「たたき台」のようなもの、あるいは「ブレーストーミングのようなもの」になるのかもしれませんが、そういう中で、追加すべき方向性や視点、あるいは取組みなどご意見をいただいて、今後内容を固めていく予定となっております。また今後10月には、基本計画を議論する予定にしておりますけれども、今回、骨子案としてお示しをさせていただいておりますので、皆様方から、お気づきの点などございましたら、あわせてご意見をいただけたら。それを10月の素案に反映させていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、早速、議事に入りたいと思っております。</p> <p>まず、これまでの協議について、事務局よりお願いします。</p> <p>【事務局】</p> <p>第4回（前回）の会議概要について報告。あわせて、総合計画策定に係るこれまでの経緯について資料1、資料2に基づき説明。</p> <p>【会長】</p> |

はい、ありがとうございました。これまでの経緯につきまして、前回の第4回の協議と、それまでの3回の協議と、いっしょに創る未来懇話会での議論であったり、市議会での質疑応答の様子がまとめてあるかなと思います。

私も改めて見させていただきましたが、市民の皆様の将来構想、この協議会への期待など、改めて身が引き締まる思いでございます。

それとあと、気になったのが、皆さん一生懸命自分たちで何かしようと、行政からの押し付けだけでなく、そういうことが非常に感じられて、そういう風な議論もされていたんだと改めて認識することができました。

これにつきまして、何か御意見や気づきなどございますでしょうか。

無いようですので、続きまして、第二次山口市総合計画骨子案につきまして、説明をお願いします。

【事務局】

議事（2）について、資料3に基づき骨子案を説明。

【会長】

はい、ありがとうございました。只今、事務局から説明がございました。

これから意見交換に入りたいと思います。

事前に言えばよかったのですが、できるだけ多くの方の御意見をいただきたいということで、皆様から、一言ずついただけるといいかなと思っています。

【委員 A】

私からは2点。

まず1点目が、将来都市像のキーワードで、「豊かな暮らしと交流と創造のまち山口」で、創造のところに「共に創る」というのと「シビックプライド」をあげていらっしゃるんですが、シビックプライドを取り上げていただいたのは、非常に素晴らしいことだと思います。それも創造のところにシビックプライドを入れられたというのは、良い視点ではないかと思います。と言いますのは、まちづくりの中で、シビックプライドというのは、誇り、郷土愛など訳されますけど、まさにここに書いてありますように、遺産ではなくて、従来の郷土愛と違うところは、当事者意識があるか、ないかであると伺ったことがあります。つまり、歴史ある山口で、明治維新の時に150年前に、こうした、ああしたということではなくて、150年前にこういう先達がいたことを、今もこう受け継いでいる。今生きている私たちが、当事者意識をもってその地域に誇りを持つ。それが、今までの郷土愛と違うところだと承知しています。ですから、この創造のところに、過去の栄光だけではなくて、今、私たちが市民として参加しているまちがこうなんだ。あるまちでは、そこも江戸時代の城下町で非常にプライドを持っていらっしゃるんですけども、タクシーの運転手さんによく、地域の実情を聞くのに、質問するのですが、大抵、このまちの一番の自慢はなんですかと聞くと、何年前にこうしてなど言われるんですけど、ある運転手さんが、うちのまちは、日本一いい焼却炉があると言われました。この焼却炉は、これからの未来の地域を守るためにゴ

ミの収集について皆が決めたんだと言われまして、あっ、こういうイメージかなと思いました。まあ、お城も誇りの一つなんですけども、今、市民が決めたところが未来のことも含めて誇って、それを自分たちが、おらが町の財産なんだと言っている。これが私のイメージしているシビックプライドはそれで、ぜひ、そういう意味合いを伝えていただける計画になればいいかなと思います。

2点目は、そういった抽象的な思いを施策レベルにするときに、何を指標として具体的に認知するのか、皆が知るかというところで、やはり指標の出し方が、行政としてはキーポイントになるかと思えます。QOL（生活の質）を考える授業で取り上げたのですが、従来、国民の豊かさというと GNP、GDP という経済的な豊かさの指標が一般的で、その見方に一矢報いたということがありました。

それはブータンです。ブータンの首相は、「自分たちがこれから成長していくのは GDP の向上を目指すのではなく、国民総幸福量を目指すのだ。」というのを触れてらっしゃいまして、ちょっとセンセーショナルでした。

例えば、自然を破壊するほど、工業や産業が隆盛するのは幸せではなくて、国民総幸福量の指標の一つは、健康診査の受診率が高いとか、健康の部分もあるんですけど、例えば、ブータン人は自然との触れ合いを非常に重視するので、身近な地域の中で、野草や花の名前を知っている数が最も多いとか、地域の中で、日常的にあいさつをかわす人数が多いとかですね、ちょっと国連に出たときは意表をついたのだそうですが、例えば、山口市でも図書館があるとか環境整備だけでなく、図書館の利用率であるとか、せっかく、YCAM があるなら、YCAM の中で最先端の情報、アートに触れた人の率であるとか、外国人の方もただインバウンドで増える、旅館に泊まるとかではなくて、一般市民が外国人と触れ合った経験がどれだけ上がるかとか、そういった、これが私のふるさとだと言えるようなことを見える化するための指標について、ぜひ柔軟に検討いただければと。

【委員 B】

今回の、目指す市の姿というものを読んでみると、理想としては大変素晴らしいなと思うのですが、それに対して、私ができることは何だろうと考えていますと、非常に限られてはいるのですが、その中でも手すき和紙を通じてイベントなどに出席して小さなお子さまから大人の方まで体験して下さって、徐々につながりが広まっていき、今度はいろんなところから、うちでやってくれないかとお声かけもいただくようになりまして、県大の方も授業の一環として来てくださり、いろんなことがあります。あと、多様性というところもあって、実際、私は2年前東京から移住してきて、暮らし始めてみると、東京都は全く違う人間関係とか、地域の行事とかやらなければいけないことが沢山あって、幅広い考え方を持っている方がいるんだなと勉強になる反面、何かをしようとしたとき、リーダーシップをとる方が非常に多くて空中分解するとういうのも避けられないことなのかなと厳しく思うこともありました。あのう、その時にですね、一つの目標に向かって、やろうというときに、なかなか進まないことをずっと見てきているの

で、自分のできる範囲のことで協力している方に声をかけて実行していくが自分でできることかなと思うようになっていきます。

で、この市民アンケートとかのコメントを読んでいると、とても能動的なコメントを出す方と、行政に何とかしてほしい、こうなればいいのにといい方をされる方といると思うのですが、折角、能動的な、もし自分に何かできることがあるなら手を貸すよという姿勢でコメントを出される方がいたらですね、そういう方が、例えば人材プールみたいになっていって、どこかで手が必要な時に、そこに投げかけると、自分はそのタイミングで手伝いに行けるから手を貸すよと、そういうものが、もしかしたらどこかにあるのかもしれないけど、折角こういう市民の生の声がまとめられていて、そういう話し合いの場に来る方は、意識の高い方だと思うので、そういった方をつなぎとめていただいて、何かというときには、力を併せて活動できたら良いのではないかなと思いました。

あと、もう一つは、徳地まで人を呼び込むのは難しいと感じていましたが、どんな山奥でも本当に来たければ人は、来てくれると思うので、和紙づくりを見てみたいとか、面白い話を聞きたいとか言ってもらえるよう色んな側面から磨きをかけていくことが必要かなと思っています。

【委員 C】

実際に地域づくりを始めたのは7年前。大殿では、当時どう考えたかというところ、地域を見直してみようということになりました。過去をどうとでもなく、見直して役に立って、掘り起こしてみようじゃないかと。まあ、この「やってみよう」が徐々に広まって、(基本計画に)まあ大殿がここに出ています、地域の特長とか、我々のスローガンも載っていますが、ずっと続けてきて、ものすごく進んだというわけではないが、徐々に進んできている。たまたま、ちょうちんまつりと、庭木の学校が出ていますが、ちょうちんまつりは、伝統的なまつりであったが、それがぱたっと戦後なくなって、随分久しく無かったですけど、小さい提灯を集めてもう一度、やり直してみるということが、今では全市的にも広がってきている状況にあります。だから、ものの考え方で、当時は、上手くいった例かもしれませんが、逆に今度は、少しお金を使い、違う目標をもっていくべきかなといった考え方をもっています。

す。

【委員 D】

5年前に東大の先生のお話を聞いた時に、これからは、環境と災害対策と一緒に考えていく時代になると言われたことがあるんですね。それがもう、最近では現実的なものになっています。17ページに載っている「ボリュームからクオリティ」というのがありますけども、私たちもこれまで、量ばかりを求めていたけども、本当の本質を、そのものの本質をよく見極めて、物を買ったりだとか、買い方、いわゆるトレードとかも考えながら生活していかないといけないなと考えています。

それから、また別のことですが、私は山口市に住んで30年くらいになるんですが、その間に湯田温泉に入ったのは、多分5回くらいしかないんじゃないかなと。以前、道後温泉に行ったときに、一緒に入っていた老婦人が、「私は毎日、ここに来ているんですよ。」と言われて、やはり市民が毎日でも入れるようなところがあったら、もっと湯田温泉のいいところが広がっていくんじゃないかなと思っています。

【委員 E】

私の感想としては、初めの将来都市像ですけども、文言を見て、大変よく考えられている。豊かな暮らしと交流、今はコミュニケーションですね。

で、私一つ思うのですが、「これが私の故里だ」ということですが、これは中原中也が山口で有名ですので、これを掲げられたと思うんですけど、私は、文学が専門ではないので分からないんですけど、「これが私の故里だ」都市像のここでは、まあ自分のシビックプライドというようなこともありましたけども、これがまちだ、これが山口みたいな、そういう意味合いでこれを出されたのだと思いますけど、中也の詩の帰郷では、少しニュアンスがちょっと違うのかなと思っています。

「故里」を中也ということで、あえてこの字を使われていると思うんですけど、普通の「故郷」を使われてもいいのではないかと少し、私は思いましたけど、私も中也の専門ではないので、どうかと、研究していただければなと。

それと、5つのSLに載った政策グループですけども、この5つ大変よくまとめられているなと思いますけど、もう一つ強調してというか、山口ではこれだぞというのがどれかと自分で考えてみたときに、やはり「子どもが一番育てやすいまち」っていうのを出せたらいいかなと思いました。どれも大切なんですけど、一番初めの政策グループのところで、「あらゆる世代が健やかに暮らせるまち」なんですけども、その中でも、子育てとというか、子どもをターゲットにですね、子どもの権利条約では18歳までが子どもですので、子どもっていうのが、安心安全で育てやすいっていうのを掲げられると、すごくいいんじゃないかなと。

環境の面で、子育てに大切な自然もある、交流もある、それから文化もある。いろいろ学べる環境が整い、非常に子育てにいいまちだよというのを全国に発信したらいいのではないかと思います。

子どもをターゲットにするのは、やはり人口が増えますよね、人が外から入ってくる。だから市自体がとても活気づくのではないかなと思っています。

その中で、山口都市核・小郡都市核、21地域の図がありますけども、子育てには自然も文化も入りますので、その辺は交流が必要と。そうしてみると、南部地域に私がいるから言うんですけど、南部地区では、子どもが雨の日にどこかで遊ぼうとしたときに、やはり山口の方、県の児童センターなどまで出て来ないと他にはない。だから、それぞれの都市にもきちっとした子育ての施設をつくってもらってですね。それから21地域拠点もですね、先ほど、狭いところに人口集中していて、周辺部はほとんど人がいないという話もありましたけど、周辺の21

地域にもベッドタウンから人が広がっていくとか、子どもの施設や文化施設を作
って、人口が集中したところから少し、周辺に人を動かしていくとか、市全体で
学べるようになればいいかなと思いました。

【委員 F】

高齢化がどんどん進んでいき、本当にどうなるのだろうと、私も想像がつかない。
私も高齢者の一人ですけど、やはり福祉の立場から言うと、子どもから老人まで
ですね自由に動けるまちづくりが、ぜひ必要ではないかと思います。

それと、政府が今盛んに言っていますが、共生社会ですね。地域での個人や団
体を問わずですね、お互いが助け合える、そういうまちづくりが盛んに言われてい
ますが、そういうものを目指すべきではないかなと思います。

そういうことを考えながら、この骨子案を読ませていただくと、いろいろなこと
が書いてあります。充分すぎるくらいのことが網羅されていると思う。

ただ、実際に具体的にどうしていくのかというのは、これから実施計画をつくら
せていく段階ですね、でてくるわけですが、なかなかそれが上手く進まない、
財政的な問題などいろいろありますから、それはそれとして、私は、これは大変
よくできているのではないかと思います。

あとは、いかに実施計画までつくり実行していくかということが大切だと思いま
す。

【委員 G】

量の時代から質の時代へと改めていこう、誇りある地域づくりを進めていこうと
いうこれはとても素晴らしいことではないかなと思います。

私からは、その関係で1点、18ページから、指標のことが書かれていますが、
人口は、基本的な指標ですので結構ですし、20ページの3番のふるさと指標は、
これは市民の意識を問うて、それを指標化していこうというのが、とてもいいこ
とだと思いまけど、真ん中の交流人口は、実は曖昧な、指標で、概念が定着して
いるわけではないのですが、恐らくこれは、つくっている人以外は、説明できな
いと思います。ですので、少なくともここでは定義を書かれたほうが良いと思
います。それと、今計測しているものが本当にいいのかということは、いい機会
ですので、改めて見直していただいて、必要であれば過去も含めて改訂していただ
いて、山口市の交流人口はこういう考え方で測りますよというのがあれば、そう
していただくのがいい機会ですので、いいと思います。きちんと定義した上で、
数字を捉えていく、それがこれから目指すべき姿に反映できるものにしていくと
いうことをご検討いただければ。

【委員 H】

今回の骨子案、非常に興味深く拝見させていただきました。特に5つの政策は、
大変共感しております。これが具体的に進んでいくことを切に願うところです。
私からは、骨子案16ページの将来都市像のところ、経済界としてどうしても
これを入れて欲しいものがあります。

5つの政策にしても全て成り立つのは、やはり、その場に働く場があるからこそできるわけであって、働く場というの、要は、その心豊かな暮らしができる収入が得られる雇用の場があるからこそ、こういう政策が生きてくるわけだと思っています。なぜ、そこまで言うかといいますと、以前も事業承継のことをお話ししましたが、商工会議所でいろんなアンケート、ヒアリングをしております。会員総数約3200社の一部ではございますが、一つの例として、山口市の南部地域の理容店がこの5年、10年で廃業する率がものすごい高いんです。で、その後継はどうなるかということですが、廃業する、じゃあ今、理容学校にどれだけ入学するかというと、理容の方はほとんどいないという実態を御存知ですか。美容はいらっしゃるんですけど、理容はいない。じゃあ、5年後、10年後どうなるのか、理容難民がでるかもしれない。それも非現実的な話でもない。そういうことが今起きつつあります。これが今の実態でございます。

そういうことを考えていきますと、理容業がどうこうというわけではありませんが、生活できるだけの収入が得られる仕事がこの山口で得られるか、ということが非常に大事になってくると思っております。将来都市像の豊かな暮らしというところに、心豊かな働く場を維持、発展させていくということもこの文の中にぜひ入れていただきたい。特に旧山口市は、600年の歴史がありまして、いろんな歴史の過程の中で、風水なんかも取り入れ、この場所が選ばれて、行政や民間のものが集中してきた経緯がございます。10年前に道州制の話が出たとき、県庁が広島にいつてしまう、あの時、経済界に衝撃が走りました。仮に県庁舎が無くなりましたら、お役人の町と言われる山口市の消費がパッと無くなってしまいます。これがどれだけのインパクトがあるか。要は、新しく作るよりも、今あるものが無くなることのほうが、どれだけ破壊力があるかということです。

そういう大きな柱が無くなると大きな影響があります。まちというのは、バランスできていまして、山口都市核は、この5年間で5千人増えてきましたけども、バランスがとれていい方向に向かって増えてきているわけですし、山口の駅通りは現在、飲食店がすごく張り付いていまして、これも一つの表れであります。という経済の流れを壊さないような、まちをつくっていくということも言葉として入れて欲しい。

【委員 I】

17ページにある将来都市像のキャッチフレーズとして、中也の「これが私の故里だ」と使われているのは、うれしく思っているところです。

この中に、多様性、ボリュームからクオリティ、そして、シビックプライド、人と人との交流とかですね、これをつき進めていけばですね、そういう視点からみていけば、いろんな政策ができてくるのではないかと思います。それをですね継続的にやってほしいと思います。それが、一つの文化をつくり、歴史をつくります。そして、先ほどの中也の詩の「これが私の故里だ」と誇れるまちづくりにもつながっていくものと思います。

また、山口市は1000平方キロメートルを超えるなか、JA（山口中央農協）は21地域で700平方キロメートルの面積がある。最近では、高齢化で農地の荒廃が進んでいる。そういう中で、継続してやっていただき、我々も協力していく。すぐに協力できるのがですね、来年が明治維新150年がありますね。これを契機にですね、遊休農地の美化運動っていうんですかね、例えばの話、桜や菜の花など山口にはいろんな花がありますけど、農地で言えば、れんげまた、秋になればコスモスなど植えるなど、活用していただければですね我々もご協力できるのではないかと思います。そういうことが、豊かな暮らしプラス心の豊かさにもつながるのではないかと。人間というのは一生懸命仕事しておりますと、心の豊かさを忘れがちなところもありまして、こういうのが重要なかと。

【委員 J】

森林組合というと山の仕事。雇用については、市の方からも政策的に事業の方を展開していただけてまして、それを一生懸命頑張ることが山の活性化につながると思います。

もう一つ、私は阿東の住民でもありまして、自治会のお世話をやっています、それを通じて感じたことを言わせてもらおうと、市広報など配布していますが、集落には1人、2人しかいないところもあり、ぜひ、集落の再編成をしていただけて、昔から集落単位ですみますので、集落が違えば隣の集落のことは無関心になるということもありますので、その辺をお願いできればですね、一つの大きな地域で一つの形をとらなければと。

また、地域の中でも、余裕のある人と、自分のことで精いっぱいの人と、人の手を借りなければならない人と分かれていて、今は余裕のある人がですね、いろいろなお世話をしているんですけど、なかなか余裕のある人も少なくなってきた、いろんな役職が一人の人に集中してですね、毎日会議があるという状況もある。そうした中で、この骨子案をみると、よくできていますが、この中でどれを100%、どれに70%重点を置くかという視点が重要になってくると思います。少子高齢化の中で、子どもにも高齢者にも力を入れていかないといけないと、行政も手が回らないと思いますが、一つには山口市の特長を出していただけて、全国に誇れるようなものにしていただきたい。

【委員 K】

将来都市像のフレーズは山口らしくて、私はいいのではないかと思います。

また、数値によるまちの姿で3つの指標が設定されることも良いとおもいます。特に、ふるさと指標は、企業で言うと顧客満足度などといわれますが、そういう観点からアンケートをとっていただければいいのではないかと思います。

あと、交流人口で言えば、昔は観光だったんですけど、今はいろんなツーリズムとかよく言われますが、学会とか、スポーツ、文化、サークル活動、そういう意味ではいろんな人が山口に来られていると思いますので、観光だけでなく、もっと広い意味で諸施策をつくっていただければいいのではないかと思います。

それから金融、特に4番目の産業・観光で、事業承継なども入れていただいて県、市、商工会議所で連携していただければありがたいかなと。

KPI に関して事業承継について入れていただければ、いいんじゃないかなと。それから、様々な業種で人手不足が言われていますが、女性、高齢者に働いていただく環境が大事ではないでしょうか。女性は働かなくてもいいのではないかという意見も中にはありますので、そういう働きやすい環境は大事ではないでしょうか。今日の日経新聞にも掲載されていましたが、豊島区ではベビーシッターが成功したというのがあります。ぜひ、山口市は特に待機児童を強力に推進していただいていますけど、女性が働きやすい環境をお願いします。

それと働き方改革、金融業ではフィンテックといいまして、少し前には、金融業も5年後には変わっている、IT 関係ですね。でも、今は3年後には変わっているのではないかともいわれていますので、ぜひ、生産性向上といいますか、IT 関係で生産性を上げるという観点も、諸施策の中に具体化していただけるといいのでは。

【委員 L】

人口の構造、動態については以前にも話があり、広い土地の中で、一部に人口が集中しているのは、市民の方のライフスタイルやニーズを表している。

という中で、計画の中で、3つの拠点の役割や機能をしっかり持たせてまちづくりを進めていこうというのはその通りだと思います。

一方で、都市拠点の方は便利でいいのですが、いわゆる生活拠点というのは、いろいろ考える点も過分にあるかと思いますが。

先ほど、興味深い話がありましたが、市民の意識調査の中で、市民が誇れる地域資源に豊かな自然というのがありました。一方で、豊かな自然の中に遊休地が結構増えている。それから、空き家などあります。遊休地については、災害にも結びつくということも言われていますから、例えば、先ほど言われましたように花を植える話もありましたが、花を植えるだけじゃ誰も見る人がいなかったら意味がないということもありますので、若者の多くが地域資源として誇れる SL 山口号がありますが、例えば、地域資源の沿線で、遊休地に花を植えることをすれば、SL の魅力もさらに高まるでしょうし、地域資源どうしを有機的に結びつけていくと行政も打ち出しやすいのではないのでしょうか。

あとは、全体を通してですけど、骨子案はいろんな課題をしっかりと盛り込んでありますけども、いい計画になるのではないかと思います。

一方で、人口減少や生産年齢人口の減少は避けられないわけで、便利さ、豊かさ、それに越したことはないんですけど、我々、住んでいる者も我慢しなければいけないことも出てくるのかなと思いました。

【委員 M】

将来都市像のフレーズ、私はこれほとってもいいと思います。山口は600年の長い歴史を持った、とても素晴らしいまちであります。

街角で聞いたら、こういういいものがあると市民が言えるようなまちになったらいいなと思います。シビックプライドのことが記載されていますが、それも良いことだと思いますけども、600年の歴史、これを捨てることもないだろうと思います。

【委員 N】

以前に広島で生活していたときよりも、心の豊かさでいうと、現在、山口で暮らしている方があると感じています。

そういう部分から言いますと、東京、大阪に出張などで都会に故に疲れて帰ってきて、山口で心が癒されるという生活を送っている気もします。

ファストフードの反対の言葉でスローフードという言葉がありますけども、スローフードから発生した言葉というのが、スローライフですかね。ゆったりとした生活という言葉があって、今スローシティという言葉もあるんですけども、そういう風なものを都会の方に分かってもらうように、地域おこし協力隊の方などいらっしゃいます。今、私が接している地域おこし協力隊の方は、1年2年経って、3年経ったときにどういう生活するんですか、どういう仕事をされるんですかと聞くと、まだ決めかねている方もいらっしゃいます。やはり、山口市として、地域おこし協力隊を受けられるのにも、山口市にはこういうものがあると出していくのが一つではないかと思います。例えば、嘉村磯多の帰郷庵というのが仁保にありますけども、あれの運営に関して一つ疑問を持っているのが、官の方で管理するよりも、やはりそういったところで経営してみませんかというような地域おこし協力隊を公募するとか、また重源の郷にも古民家がございます。非常にヨーロッパ、欧米人が好むような建物があるんですけども、そういったところに経営してみませんかというような公募も一つあるのではないかと。これぐらいの規模であれば湯田温泉の旅館にも影響がないので、そういったことも良いのではないかと。そうした取組みを通じたりピーターが山口に来られることで、まあ定住ではないんですけど、住まわれる方が増えていくのではないかと。何を言いたいかというと、9ページにあります山口市の人口推移、これまでの50年とこれからの50年のグラフがございますけども、やはり、私ども観光というものを受け持たせていただいております者は、これと全く違う、山口に来られる、いわゆる交流人口と申しますか、宿泊客数のグラフを右肩上がりにもっていけるように、なた売りが右肩上がりにもっていけるような、山口市に対して経済的な波及効果があるような取組みを心がけています。滞留時間の拡大や交流時間の拡大というものを示す表があってもいいのかなと。

それと一つ情報ですけども、タイの方から、山口の方に訪れていただいております。関西空港から岡山、広島それから山口にやってきました、福岡空港から帰っていくコースで組んでもらっています。山口に来て何をするかといいますと、湯田温泉に泊まって、阿東か秋穂で半日の日本家庭体験です。日本の家庭で3時間、4時間、家庭の方々と触れ合う。この4泊か5泊の過程の中で、一番思い出に残っ

ているのはどこですかというアンケートを見ますと、山口の民家体験がとても良かった、満足度200%ですという声があります。私どもも、インバウンドの取り組みの中で、こうしたものを取り組んでいきたいと思ひますし、あまり受け入れすぎると、受ける方はパンクしちゃいますのでほどほどにしておきますけども、そういうことで、交流人口なり、滞在時間の拡大も一つ目安として取り上げていただきたい。

【委員 O】

5月13日に山口県全市とホームタウン、主に活動を行う地域ということで、山口県全域で活躍させていただくという形をとりました。Jリーグで地方創生・まちづくりということで、各市町に集まっていただいてこれからそういった活動をしていくというかたちになりました。そこでのポイントとして、一つには、地域の元気、シビックプライドの醸成にお役たちできるかなと、もう一点は、交流人口の拡大にお役立ちできるかなと思っています。例えば、各選手をPR大使として派遣して、取り組んでいく。素材そのものが強ければシビックプライドにつながりますが、これが世界に誇れるとなればそれはそれで誇れるようになるかなと。シビックプライド自体を外に伝えていく手段に我々を使っただけというようにすることもできるのではないかとと思っています。というのが、我々という存在は試合を山口の維新公園等で19試合行っています。昨年の実績ですけど、6千人くらいのお客さんが、約20回くらいお越しになられていて、そのうちの1割がビジター、残りの9割が山口県民であろうと、我々を応援して下さる。シビックプライドを醸成していくには、何ていうんでしょうか、外の方に見ていただいたり、比較対照するものがなかったら、なかなか難しい部分もあると思ひます。先ほど、ありました日本一の焼却炉っていわれましたかね。何か1回、外で認められるというか、外というのは、市外、県外に認められる。我々がシビックプライドの醸成のコンテンツにさせていただけるなら、我々が全国で活躍したらそうなるのではないかとと思ひます。ただのサッカーのチームではそうならない。そういう全国に情報を発信していくのにプロのサッカーチームを活用していただいたらいいんじゃないかなと。サポーターの間でSNSで発信する力は目には見えないんですが、非常に強い部分があると言われていまして、分かりやすいのは、うちではありませんが、胸のスポンサーが倒産しそうになった時に、その会社の商品を買おうということで情報発信されていたりですね、そういった目に見えないSNSのつながりが、業界でもあるので、そういったことを逆活用して、発信していく、活用していただくのはどうかと思ひます。

【委員 P】

これまで出された意見と重複するかもしれませんが、将来都市像のフレーズについて、私も、中也の詩ということで、このフレーズを使用されたのだと理解はするのですが、「ふるさと」といえばやっぱり漢字の「故郷」を想像してしまいますので、若干の違和感があります。まあ、この違和感をあえて、プラスにとるとい

う手法もあるので、そのあたりは、よく考えられたらいいのではないかと。もう一点ですね、ふるさと指標を測っていくと、非常に素晴らしい考えだと思います。で、ここの指標の取り方ですね、非常に大まかな質問になっています。のちにできます KPI ですね、こちらでは、より具体的な指標が設定されていますけども、やはり、市民に聞くという点では、先ほどもありました、湯田温泉にどのくらい1年間に入浴しているのかとかですね、日本一本を読むまちづくりを掲げられていますけども、市立図書館で借りた人数ではなく、1年間にどれだけ本を読んでいるのか、具体的な数字を取っていくのが良いのではないかと。アンケートには、聞いて耳が痛いような項目も入れていく方が今後につながるのではないのでしょうか。

【委員 Q】

私からは、目指すまちの姿について3点ほどございます。

まず、目標年次に定住人口19万人を目指す、人口減少社会にあってなかなか大変なことだと思いますけども、人口減少問題への対応につきましては、市におかれましては、既に「まち・ひと・しごと総合戦略において、山口に新たな人の流れをつくる、どのような目標を掲げて、都市圏からの若者を含む幅広い世代の対象に移住の促進とか、県外へ進学した学生のUターン対策などに取り組むとされています。こうした県外からのですね、市内への移住や還流の推進に向けた取り組みはですね、今後ますます重要になってくると考えておりますけど、プロジェクトの方にはですね、触れられていますけど、この将来都市像には移住や還流によって山口への人の流れをつくり、定住の促進や交流の拡大につながっているというのがニュアンスとして読みとれませんでしたので、まあ分野別ですのでもちょっと難しいんだとは思いますが、可能であれば、総合戦略との整合性も踏まえて工夫されたらどうかなと思います。

次に、健康福祉、健やかに暮らせるまちにおいて、医療について触れられています。その中でも、在宅医療のことが触れられています。これは、次回の議論になるのかもしれませんが、高齢化の進展に伴って、医療と介護の両方を必要とする高齢者が増加しています。こうした方々がですね、病院から退院後、在宅での生活を継続していくためにはですね、医療、介護関係者が連携しながら医療や介護を適切に提供していくことが求められておまして、特に要となる訪問診療や訪問看護など在宅医療に対するニーズが高まっております。また、内閣府の調査によりますと、高齢者の約55%は終末期に自宅で最期を迎えたいと答えています。こうした方々の希望がかなえられるよう在宅医療の提供体制を整備して、本人や家族が望めばですね、在宅で看取れる仕組みが地域で構築していくことが大変素晴らしいことですので、ぜひ医師会等と連携して在宅医療の充実に努めていただきたいと思っております。

3点目ですが、政策グループ5「市民と共に創る自立したまち」ですが、地域住民の主体的な活動が活発的に行われていますと書いてありますが、これはですね

バラバラにですね、行われるのではなくて、具体的にまちづくりに生かされるような活動がですね展開されるのが理想かなと考えています。

ここに図が描いてありますけど、1番から4番は分野別ですけど、5番はですね、協働と行政これは、1から4の基礎になる部分、ベースになる部分だと思っています。要は、それぞれの分野において住民の主体的な参加、担い手としてのですね、役割が求められていると思いますので、ぜひこちら辺をですね、市民活動を育成支援する中で、上手い具合につなげられるような仕組みを検討していただけたらと思います。

【委員 R】

12年くらい前に生まれ故郷の徳地に戻ってきました。中学2年生のころだったと思うのですが、徳地町の人口2万人でしたが、現在7千人ですかね。

やはり過疎化したまちを見てこれではいけないなと思っています。

この基本構想はですね、将来都市像として、県央部の都市核づくり、そして、市内の21地域のそれぞれをやっていくということで、23ページの重層的多極型のコンパクトシティとして、各拠点が互いにネットワークでつながり、やっていくというのが、のっております。

で、拠点づくりの中にですね、都市拠点はどうか、地域拠点はどうか、あるいは生活拠点はどうかということが、抽象的に書いてあるんです。

まあ、これは構想ですから、止むを得ないと思うのですが、ここでお願いなんですけど、実施計画の中では7ページにありますように、明治12年に素晴らしい町や村があったんですが、これに合併に合併を繰り返して、大山市になったわけです。そういうことを考えますと、それぞれの地域で実情が違うと思いますので、地域にそった具体的な指標をつくっていただいて、基本計画の中に取り組んでいただきたいというのが1点。

それから、都市核と地域拠点とのネットワークをつくっていくというのは大事なことなんですけど、多くの村が合併しておりますから、各地点で経済圏が違う、生活圏も違う、教育圏も違う、医療圏も違うので、都市核内だけのネットワークではなく近隣を含めたネットワークを含めて基本計画の中には、具体的に組み込んでいただきたい。

もう1点ですね、基本計画の最後にですね、52ページに地域づくりの方向性ということで、6月から地域交流センターの所長がですね、まちづくり協議会に意見を聞いていくとありますが、まちづくり協議会とは、どういう組織でできているのか我々には分からないのです。どういう組織で、どういう人が入っているのか、その辺をもっと知らせてですね、広く多くの人に意見を聞くという風にしてもらわんとですね、なんか仲良しグループじゃないかという感じもしますので、その辺も含めて意見を聞いていただきたい。

【委員 S】

今回、この資料と皆さんの御意見を伺い、私は3人目を、将来の若女将候補を生

み育ててみようかなと、将来への希望を今持っています。

私は、介護と育児と妊娠を同時進行しなければいけない時期が2年前にありました。その状況になったときに、情報を得ることがまず大変だったことと、1か所行ってはまた違う場所に行って得られるものを、また次にという風にしなければ、祖父を尊厳のある生き方を介護にできることがとても大変でした。ただ、医療関係者の方や社協さんや行政の方や本当によくしていただいて、その時に山口市で豊かに人生を全うすることができると感じさせていただきました。ただ、今度、妊娠、出産となると、また不安がやってきて、どこにいけば確実に保育園にいられるのだろうか、どの病院に行けば、出産ができるのだろうかということを調べるのが、とても大変なことがあります。その大変だった思いという不安が、もう二度と子どもを産みたくないというものにつながっているのだと思います。ただ、私はの資料を見たり、皆様のお話を聞いていたときに、こんなに皆さんに支えられているんだと、それなら安心して産もうと思いました。

なので、そういう人を私の周りにも増やしていきたいので、ただ、やっぱりそのためには、行政の皆さんや、こちらにいる皆さんに、こんなに大丈夫なんですよということを伝えていただけたら、子育て世代としては、よし、私たちががんばりますと言えると思います。なので、このもし、できるのであれば、山口市で人生を送っていくステージごとに、「自分は何を享受できるのか」というのを具体的に分かるようなものを、自分の人生が可視化され、イメージできるようなものになると、市民の誰もが自分の人生を山口市で送ると思えるのではないかと思います。ぜひ、分かりやすいものを提示していただけたらと思います。

【会長】

はい。ありがとうございました。計画は色んな人の立場にたって考えないといけないと皆さんの御意見を伺って思いました。子育て世代の方もおられるし、都市部から来られた新住民のかたもおられるし、中山間地域にお住まいの方もいらっしゃいますし、学生もいますし、それから海外からくる留学生もいます。いろんな立場、視点で考えないといけない、今日いろんなご意見をいただきました。ぜひ、これを参考にさせていただいて、その内容をブラッシュアップできるのかな。あの、絶対感じたことですが、最初に委員から言われましたように、我々は、我々の子どもたちに何を残せるのかだと思いますので、新しくシビックプライドをつくっていく、すごく大事だと、過去にしばられるのではなく、レノファもそうだと思います。新しいシビックプライドを我々でつくっていく姿勢が大事ではないかと。そこには、子どもの将来とか、そういうことも考えながら、つくっていく必要がある。その時に山口市が持っている様々な自然だとか、文化遺産とか上手に使っていけばいいんだろうというふうに思いました。

あとは、こんな大きな山口市をどう捉えるかだと思います。

私の住んでいる近所の方は、船方牧場の牛乳を飲んだ人はおそらくいないと思いますし、柚木の慈生温泉もご存じないと思います。こんなに山口市にいても、山

| | |
|---------------|--|
| | <p>口市のことをあまり知らないと思います。秋穂で魚釣りしたことありますかと言っても「ん？」という方も結構いると思います。もっとその、これだけ大きな山口市というものをもう少し皆で知り合える、理解し合える、皆で助け合うというのがすごく大事なと。そのためには、例えば、林間学校を徳地でやってみるとか、皆で、同じような志をもって、シビックプライドをもっていくことが大事ではないかと思います。</p> <p>それから、拠点というものの実態がよく見えないです。私、聞いてて。拠点って何だ、建物があるのかな、そこに何人か人がいるのかな、何かグループがいるのかな。何をもちて拠点というのか、生活拠点に行けば何があるのか、誰がいるのか、建物があるのか、ないのかというのが、これから詰めながら、恐らくその辺がこれから議論が深まっていくのだと思います。</p> <p>なかなか、本日は抽象的な部分であって、なかなかご意見も出しにくかったのかなと思いますけど、これから少しずつ、具体的な話になっていくと思います。なので本日いただきました貴重な御意見を、次回、素案にお示ししますが、この中に反映させていきたいと考えております。</p> <p>また時間の関係上、御発言できなかった部分もあるかと思いますので、意見書にてご提出いただきたいと思います。</p> <p>それでは、今雄の日程について、事務局よりお願いします。</p> <p>【事務局】 資料4にて、小中学生絵画コンクールについて説明 次回、第6回協議会は、10月18日14時から防長苑2階にて</p> |
| <p>会議資料</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 第4回協議会における協議概要 ・資料2 第二次山口市総合計画策定に係るこれまでの検討の経緯 ・資料3 第二次山口市総合計画（骨子案） ・資料4 小中学生絵画コンクール 募集要領 ・資料5 委員名簿 ・資料6 配席図 ・資料7 意見書 |
| <p>問い合わせ先</p> | <p>総合政策部 企画経営課 TEL 083-934-2747</p> |